



新しい入院棟 「入院棟B」が 開院しました

特集

今年1月5日、新しい入院棟が開院しました。
建物の名称は、新入院棟の開院と同時に入院棟としての
役目を終えた「入院棟B」の名称を引き継ぎました。
旧・入院棟Bは「中央棟北」として引き続き研究などに使用されます。

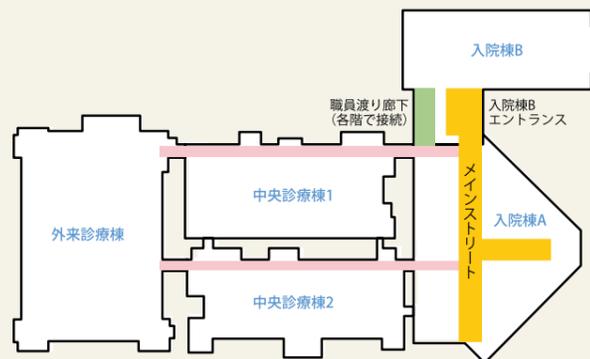
社会から期待される役割の達成をめざして

入院棟Bの建設にあたっては、入院棟Aや各診療棟との有機的な連携をはかり、高度な医療を実践するためのインテグラルホスピタル構想を基本方針としました。さらに、高機能病床の充実、周産期医療の充実、小児医療の充実、診療科横断的な診療体制の構築などの基本コンセプトが定められ、各種機能を整備するよう設計されました。東大病院は、社会から期待される役割を果たすため、新たに整備された環境の中で「臨床医学の発展と医療人の育成に努め、個々の患者に最適な医療を提供する」という当院の理念を実践し、診療・教育・研究に真摯に取り組んでまいります。



連携を強化

1階には入院棟AとBをつなぐメインストリートがあり、外来診療棟から中央診療棟1、中央診療棟2を通る廊下もここに接続しています。また、入院棟AとBは各階において職員渡り廊下で接続されており、人・物の移動や連携を強化しました。



入院フロア

「見守りやすい看護」を重視し、重症の患者さんが多く入院するスタッフステーション付近の病室には、廊下側にも窓を設置。廊下は広くて見通しがよく、視認性に優れた回廊廊下形式を採用しました。また、入院中も少しでもリラックスして過ごしていた

だけるよう、各階に明るく眺望の良い食堂、談話コーナー、ラウンジを設けました。患者さんのプライバシーに配慮し、棟内のサインには診療科名を極力表記しないこととしました。



スタッフステーション



見通しのよい廊下



見守りやすい病室



個室



4床室(特別床)



4床室(一般床)



談話コーナー



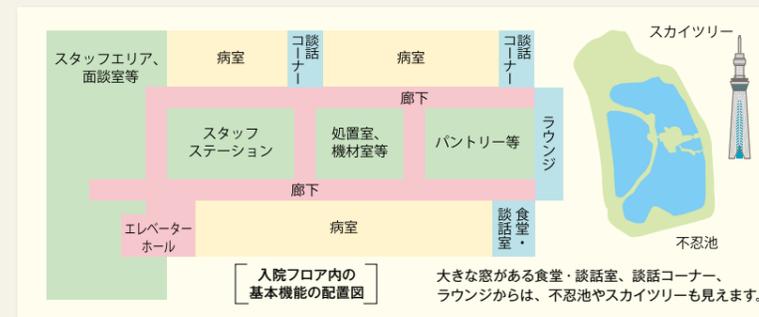
ラウンジ



食堂・談話室



精神神経科フロアの廊下



入院フロア内の基本機能の配置図

大きな窓がある食堂・談話室、談話コーナー、ラウンジからは、不忍池やスカイツリーも見えます。

子どもたちのための 機能を意識した医療空間

2、3階の小児医療センターは、奇をてらわず病気の子どもたちのための機能を重視し、医療空間でありながら生活の場でもあることを意識しました。各階に広いプレイルームや自習ができる学習室を設置。2階には家族控室や体調によって院内学級

まで通えない子どもたちのための教室も設けました。

また、子どもたちの不安や緊張が少しでも和らぐよう、メディカルスタッフによる手作りの飾りつけのほか、フロア内のサインにはイラストを採用し、壁の色をパステルカラーにしました。



プレイルーム



学習室



家族控室



パステルカラーを基調としたフロア



個室



4床室



フロア内のサインには“こびと”のイラストも



イラストが入った病室の扉



ラウンジ



かわいいイラストで飾られた処置室

診療科横断的な 診療体制

高度心不全治療センター、消化器センター、化学療法センターなど診療科横断的な診療体制を整えています。例えば高度心不全治療センターでは、重症心不全症例に対し、循環器内科と心臓外科をはじめとする複数の部門や職種からなる専門チームが関連診療科と連携しながら診療にあたります。治療後の早期リハビリの重要性を踏まえ、心臓リハビリ専用のリハビリテーションもフロア内に設置しました。



高度心不全治療センターのリハビリテーション

救命救急センター

中央診療棟2と入院棟Aにあった救命救急センターが3月より入院棟Bに移ります。これまで離れたフロアで運用してきた救命ICUと救急病棟が同一フロアに配置され、より機能的に連携して患者さんを受け入れられるようになります。



オープン ICU

メンタルヘルスフロア

こころの発達診療部や作業療法室、デイホスピタル、精神神経科リハビリセンターなどが入る10階は、メンタルヘルスに関する外来フロアです。



集団療法室

エントランス

これまで点在していた患者さんの相談窓口を集約しました（がん相談支援センター、患者相談・臨床倫理センター、地域医療連携部）。また、新たなカフェ「cafe ゆりの樹 by ROYAL」がオープンしました。

